

令和8年度

純真高等学校 学校説明会



校長挨拶



本日の目次

1. コース紹介
2. 入試の全体像
3. 自己推薦型

2027年度

募集

共創科

40名

普通科

(190名)

進学コース 60名

キャリア探究コース 100名

デジタル探究コース 30名

共創科とは

2026年度に新設。新しい「学び」の実現を目指す

旧「特進」コースの学習 + 探究的な要素

進学コースとは

確かな学力で進路をつかみ取る

同じ目標に向かう進路意識をクラス全体共有している

キャリア探究コースとは

昨年度「普通コース」がキャリア探究コースに統一

キャリア探究コースとしては現在2年目

普通コース キャリア探究コース 統合について

■なぜ変えるか

予測不可能な時代に、自分らしいキャリア（人生）を主体的に描く力がすべての生徒に必要。
探究・キャリア教育を通じて、その力をすべての生徒に届けるための変革。

○自分の好きを知り、深める時間（探究）

「探究基礎（1年生）」と「探究実践（2・3年生）」

1年次には、自分を知ることと、「なんでそうなるの？」を問うための方法を知る。
2・3年次は自分の好きなことを将来に繋げることや社会にどう繋がっていくのかを探究していく。

○学び直しの時間

中学校時代に不安のある教科や、得意な教科を自分のペースで学べる

1年次は週に3時間、スタディサプリ（動画授業）を使って、
中学校時代の内容の学び直しをするのもよし、
好きな教科をとことん突き詰めることもできる時間がある。

デジタル探究コースとは

2027年度 新設されるコース

「デジタル」で「探究」するコース

人のためのデジタル

ユーザー体験：UX

TECHNOLOGY
FOR A BETTER TOMORROW

AI時代に大切なのは、技術だけでなく、発想と説明力。



このコースが目指すこと

- 1 AIやデジタルを使って、アイデアを形にする
- 2 「誰のために、何をつくるか」から考える
- 3 人に伝わる形で表現する



普通科としての学び

- 1 国語・数学・英語などの基礎をしっかり学ぶ
- 2 数学は比較的多く配置
- 3 物理は全員履修
- 4 情報系・工学系学部も視野に入れられる

普通科の学び × デジタルの強み

デジタル探究コースの学びと進路

考える × つくる × 伝える

科目①

情報デザイン



誰のために、何をつくるかを考える

体験や伝わり方を設計する

外部と連携したコンテンツづくり

科目②

メディアアート



画像・映像・音を使って表現する

自分の考えや感性を作品にする

デジタルならではの表現力を育てる



制作環境・資格



Windows端末

PCを制作環境として使いこなす



資格

- P検
- ITパスポート
- 基本情報技術者



進学先



情報・工学系



映像・メディア系



経営・地域創生系



こんな生徒に向いています

- パソコンが好き
- AIに興味がある
- 動画・Webが好き
- ゲームが好き
- 何かをつくるのが好き

純真高校の入試の種類

3教科型

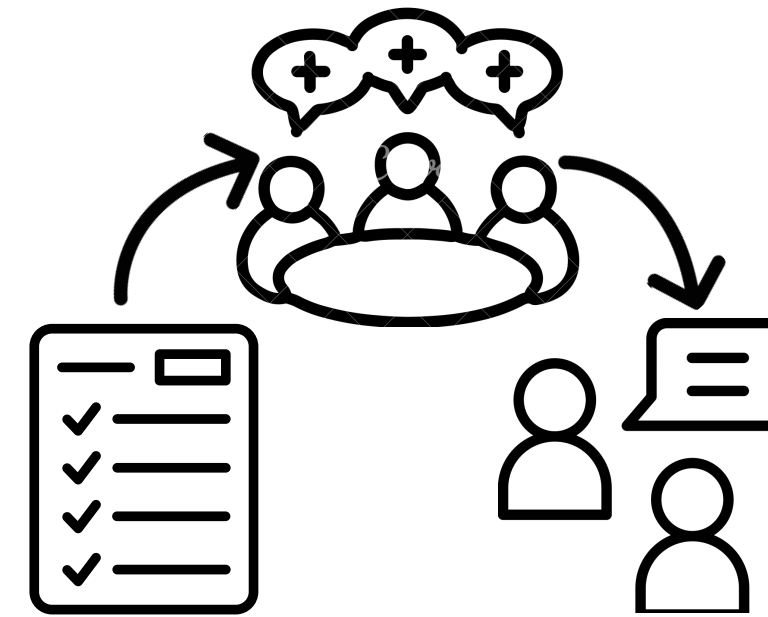


普通科

共創科

すべての受験形態で
選択可能

自己推薦型



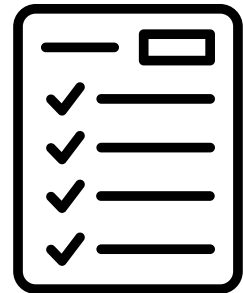
普通科

デジタル探究：専願のみ
キャリア探究：専願のみ

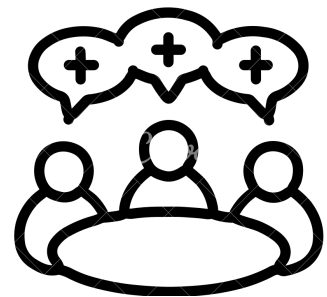
共創科

専願のみ

自己推薦型入試とは



総合問題



グループワーク

3つの試験で、主に

「協働力」

「自己探究力」

「貢献力」

があるかを評価

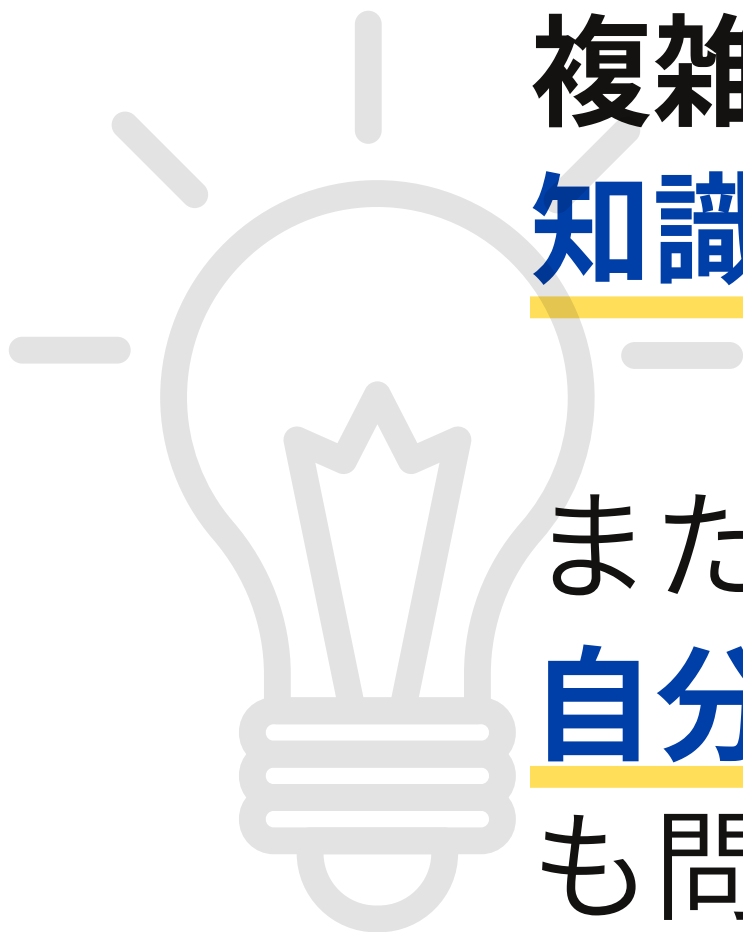
高度な知識ではなく、**読解力**や**表現力**、**発想力**を問う

総合問題の評価点

総合問題で評価するのは、
**合理的に考えられるか、
推論することができるか、** など。

言い換えれば、
**複雑なことを整理・判断する能力、
知識を応用したりする能力**ともいえます。

また、
自分の考えや根拠を正確に表現できるか
も問われます。



自己推薦型選抜 グループワークについて

1 今年度の基本方針

- 4名程度のグループで実施
- 個人ワークとグループ活動の2段階で実施
- 配点は計200点（個人100点・グループ100点）

2 昨年度からの変更点と主なポイント

- 個人で資料を読み取り、考える時間を明確に設定
- 一人ひとりに異なる資料を配付し、情報を持ち寄る形式
- 発言量だけでなく、思考・対話・整理の過程を重視

特別な知識量や話し上手さだけを見るのではなく、資料をもとに考え、他者と協働する力を見取ることを重視します。

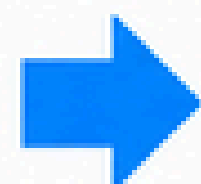
実施形式・流れ

個人で考える → 持ち寄る → 協働して整理する



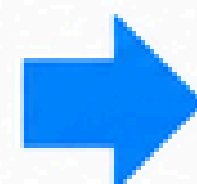
1 資料配付

一人ひとりに異なる資料を1つずつ配付



2 個人ワーク

自分の資料を読み取り、分かること・考えたことを整理



3 グループ活動

互いの資料の内容を共有し、情報を組み合わせで話し合う



4 まとめ・提出

話し合いを踏まえ、考えをワークシート等に整理

資料の考え方

- 中学生が無理なく読み取れる内容
- 見やすさ・分かりやすさを重視
- 特別な専門知識を前提としない



評価したい力と対策の考え方

特別な受験テクニックより、日頃の学びが土台になります

評価したい力

- 問いを立てる力
- 根拠をもって考える力
- 他者の意見を受け止める力
- 情報をつなぎ、整理する力
- 考えをワークシート等にまとめる力

対策の方向性

- グラフや資料から読み取れることを説明する練習
- 「なぜそう考えたか」を根拠とともに話す練習
- 他者の意見を聞いて考えを深める経験
- 話し合いの内容を要点で整理・記述する経験

発言量の多さだけを評価するものではありません。資料をもとに考え、他者と関わりながら思考を深める姿勢を大切にします。

グループワークの様子（再現）



席を立って
動いてもOK



グループワークのポイント

自分の立ち回りを意識することが大切



グループ全体を見て引っ張っていく「リーダー的存在」も重要ですが、アイデアを出していく人や、意見をまとめる人、ワークシートをまとめる人など、各自の**強みを活かして**取り組みましょう。**時には立ち回りを変えることも重要**な場面もあります。



その場に合わせた判断が重要

ワークシートの評価

- 与えられた問いに沿った提案になっているか
- 新しい発想が含まれているか
- わかりやすい・魅力的な内容か



総合的に評価



1つの項目だけではないということ

ご清聴ありがとうございました

アキ